

こがらしの ふく ばん

小川未明

青空文庫

夜よるが ながく なりました。おかあさんは おしごとを なさって います。その そばで、きょうだいは 火ひばちに あたりながら、くりを たべて いました。

「リンリン リンって、なんの 音おとだろう。」

ふいに、正しょうちゃんは あたまを あげました。

「ねずみが おかつてへ でて、なべに さわったのでしょ。」

と、おかあさんは おつしやいました。

「武たけちゃんが 三りん車しゃに のって いるのよ。」

と、つね子こさんが いいました。

「いまじぶん、だれが あそんで いるものか。」

しばらくすると、また、「リンリン リン。」と、いう 音おとが、かすかに きこえま
した。

「ほら。」

「ほんとうだわ。」

おかあさんと 三人にんが とを あけて、そとを ながめました。こがらしが ふいて、

すみわたった いい 月夜つきよでした。

かどの たばこやの まえに ちようちんの 火ひが みえて、人力車じんりきしゃが みちを きて いる ようすです。そのうち こちらへ かけだして くと、リンリン リンと、しんぼうに はめた かねの わが なりました。

かさを かぶった おじいさんの 車夫しゃふです。そして 車くるまの 上うえには、それは きれいな およめさんが のって いました。

さむく なつて、三人にんは とを しめました。

「あれは おぼけで ない？」

と、正しょうちゃんが いいました。

「きつと きつねよ。」

と、つね子こさんが いいました。

「いいえ、あの おじいさんは、いつ も ていしやばの まえに いる おじいさんです。」

と、おかあさんが おつしやいました。

きょうだいは とこの 中なかへ はいりました。その とき、また うちの まえを リ

ンリン リンと、とおる 音が^{おと} しました。いま 車^{くるま}やさんが、かえるのです。
あとは、こがらしの こえが きこえました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 16」講談社

1978（昭和53）年2月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：Juki

2012年7月16日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

こがらしの ふく ばん

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>